

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム
大学名	東京外国語大学
担当部署	総務企画部国際化拠点室
コンタクト先	TEL: 042-330-5534 E-mail: kokusai-kyoten@tufs.ac.jp

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>「日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム」は、東京外国語大学とロシア6協定校（モスクワ大学、モスクワ国際関係大学、ロシア人文大学、高等経済学院、ペテルブルグ大学、極東連邦大学）が日露ビジネス人材の育成のため、共同で行う取組である。本取組は、次の3種の交流プログラムからなり、各大学がすでに行っている「ロシア関係教育」「日本関係教育」「実学的な経済関係教育」を、それぞれ強化・高度化する。</p> <p>1) 短期留学プログラム：本学・ロシア側大学は、それぞれの学生を、学部1年次、2年次を中心に短期海外留学により交換し、それにより、「ロシア」「日本」「日露関係」についての教育の基礎を固める。</p> <p>2) 長期留学プログラム：本学・ロシア側大学は、それぞれ、「ロシア」「日本」を専攻する学生を、学部3年次を中心に交換し、参加学生は先方大学においてロシア・日本の経済・社会・文化を専門的に学ぶ。</p> <p>3) インターンシップ・プログラム：本事業では、ロシア、および日本において、日本人学生、ロシア人学生の双方に、多様なインターンシップの機会を提供する。一部のインターンシップ・プログラムは、世界教養プログラム「就業体験科目」として開講し、事前学習・事後学習合わせ2単位を付与する。</p> <p>このように短期・長期留学にインターンシップを組み合わせることで、「言語力」、「ロシアと日本についての教養・知識、経済についての知見」及び「調整力・行動力」を涵養し、日露経済協力の第8項目「両国間の多層での人的交流の飛躍的拡大」に結び付く、貿易・金融、観光・交通、農水産業、製造業・IT、医療通訳を含む通訳翻訳、報道分野で活躍する人材を養成する。</p> <p>本学は、本取組を、日露ビジネスで活躍する本学卒業生による「TUFS日露ビジネスネットワーク」との協働のもとで実施する。</p>
--

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業により新たに開始される短期の受入（夏学期）については、昨年11月からロシア側大学へ出向き直接説明を開始しており、ロシア側大学において、本学の発行する証明書等に基づき単位認定を行う体制を構築している。 ・ロシア側で行われるインターンシップの円滑な実施のため、現地にコーディネーターを配置して準備を進めている。 ・単位互換に関しては、手続き上必要となるシラバスがロシア協定校で整っていない場合がしばしばある。 ・ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリーに関しては、ロシアの大学制度が日本と違うため（在学年数、学位取得の条件等）、これらの調整が今後の課題である。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<ul style="list-style-type: none"> ・本学は、平成27年度より、クォーター制を導入している。 ・本学からの派遣学生については、留学中または帰国後に取得したロシア側大学発行の成績証明書や修了書等を基に厳正な審査を行い、各学部・大学院教授会で単位認定を行っている。 ・本学が受入れているロシア側大学学生に対しては、本学の正規授業科目を履修させており、日本語総合・技能科目及び全学教養日本力科目、その他の履修科目に関し、成績証明書を交付している。また、各授業のシラバス情報、授業時間、期間などの教務情報は英語で提供されているおり、これらの情報に基づき、単位認定は派遣元大学により実施される。
プログラムの実施における特筆すべき成果	
危機管理への対策	<ul style="list-style-type: none"> ・渡航前オリエンテーションや危機管理説明会の開催により、派遣学生に注意喚起している。 ・留学中の全学生をインターネットを活用した「ただいま海外留学中」サイト（http://tobita.tufs.ac.jp）による連絡網を構築し、派遣学生と密な連絡体制を整えている。 ・『海外旅行・留学危機管理ハンドブック』を作成し、学生に配布の上、注意事項の徹底に努めている。 ・外務省渡航情報をもとに渡航の是非を決める基準を決定しており、すべての留学に適用している。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・本学では、国際戦略の取組の一環として、短期留学・長期留学・海外でのインターンシップを展開しており、本事業はそのひとつと位置付けられる。このため、補助期間終了後も継続して本学の将来構想に資する取組みとして実施する。 ・本プログラムは、単位互換、教育の質保証も含めた、日露間大学交流の基本モデルを提示することを目標とする。この基本モデルを広くロシア語圏の大学に提示し、特に学生交流経験の浅いロシアの大学が日本の大学との学生交流を開始する際の支援へと繋げる。 ・ロシアの協定大学については、本プログラムの設計と並行して、本事業は共同教育による学位取得（コチュール）を実現させるための基盤整備としても位置づけられる。 ・本プログラムは、特にロシア・その他の旧ソ連諸国でのビジネス経験が豊富な本学卒業生の聞き取り調査によるニーズ調査の結果に基づき設計されたプログラムであり、受講対象は本学学生のみならず、他大学の学生や企業の研修者も想定している。 ・大学の世界展開力強化事業（ロシア）外部評価委員会での評価及び社会的ニーズの変化を踏まえつつ、財政支援期間終了後も、他大学との単位互換制度、社会人向けの市民聴講生制度等を活用し、引き続き、他大学の学生及び社会人へ開放することとする。

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

--